

野菜需給協議会幹事会（7月・9月）の開催状況について

野菜需給協議会幹事会

日時：平成20年7月30日（水）午前11時～12時

場所：（独）農畜産業振興機構南館1階会議室

議 事 次 第

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

（1）最近の野菜の需給・価格動向について

（2）野菜の消費拡大の取組について

（3）その他

4. 閉会

平成 20 年 7 月 30 日

野菜需給協議会幹事会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

平成 20 年 7 月 30 日に独立法人農畜産業振興機構（東京都港区）において野菜需給協議会幹事会が開催されました。その概要は下記のとおりです。

記

・最近の野菜の価格の動向について、東北・北海道などの主力産地の生産・出荷が順調である一方、気温の上昇等により消費が停滞していること等から、特にだいこん、はくさい、レタスの卸売価格が下がっていることが事務局より報告された。

・生産出荷団体より、このような価格では上記品目の一部について出荷するほど赤字になるものも出てきており、近々市場隔離に踏み切らざるを得ない状況となっていることが報告された。

・このような状況に対応して、野菜需給協議会会員は、それぞれの特色を活かし、野菜の需給動向や優れた機能のPRなど消費拡大活動を推進していくこととされた。（別紙参照）

（参考）当日の配布資料はホームページで公表します。

（問い合わせ先）

担当者：（独）農畜産業振興機構
野菜需給部 需給推進課
山内、細川、小林
電話番号：03-3583-9478

(別紙)

野菜の消費拡大活動の推進について

平成 20 年 7 月 30 日

野菜需給協議会

- 1 最近の野菜の卸売価格は、東北・北海道などの主力産地の生産・出荷が順調である一方、気温の上昇等により消費が停滞していること等から、特にだいこん、はくさい、レタスの価格が下がっています。
- 2 産地側としては、計画生産や出荷の調整等の努力を行っていますが、品目によっては出荷すればするほど赤字になっています。
- 3 野菜を食べて暑さに負けない体作りに資するため、野菜需給協議会の構成会員は、それぞれの特色を活かし、野菜の需給動向や優れた機能のPRなど消費拡大活動を推進することとします。

※ 野菜には水分が多く、熱中症対策や脱水症状の予防にもなります。さらにビタミンやミネラル、食物繊維、機能性成分が豊富で野菜をたっぷりと食べることで体調を整えやすくなります。

野菜需給協議会幹事会

日時：平成20年9月9日(火) 10:30~11:30

場所：(独)農畜産業振興機構北館6階大会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 題

(1) 最近の野菜の需給・価格動向について

(2) 野菜の消費拡大の取組について

(3) その他

4. 閉 会

平成 20 年 9 月 9 日

野菜需給協議会幹事会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

平成 20 年 9 月 9 日に独立法人農畜産業振興機構（東京都港区）において野菜需給協議会幹事会が開催されました。その概要は下記のとおりです。

記

・最近の野菜の需給・価格動向について、果菜類は 8 月下旬以降の天候不順等の影響により入荷量が減少し価格は上昇したが、キャベツは入荷量の増加等により、価格は低下傾向となっていることが事務局より報告された。

・生産出荷団体より、過日実施された夏だいこんの緊急需給調整や「やさいの日」を中心とした消費拡大活動について報告される一方で、今後キャベツの主産地では出荷がピークを迎えることから、厳しい状況が予想される旨説明があった。

・このような状況に対応して、野菜需給協議会会員は、今後ともそれぞれの特徴を活かし、野菜の需給動向の周知や優れた機能の P R など一層の消費拡大活動を強化していくこととされた。（別紙参照）

（参考）当日の配布資料はホームページで公表します。

（問い合わせ先）

担当者：（独）農畜産業振興機構
野菜需給部 需給推進課
山内、細川、小林
電話番号：03-3583-9478

(別紙)

野菜の消費拡大活動の推進について

平成 20 年 9 月 9 日

野菜需給協議会

- 1 野菜需給協議会の会員は、それぞれの立場で野菜の消費拡大に取り組んできたところです。特に、生産者としては、8月31日の「野菜の日」のイベント等を強力に展開してきたところです。
- 2 しかし、キャベツなどの夏野菜は、出荷量の増加等により卸売価格が低下傾向となり、農業資材価格の上昇など経営環境の悪化とあいまって来年度以降の再生産への悪影響も憂慮される事態となっています。
- 3 このような状況を踏まえ、野菜需給協議会の構成会員は、それぞれの特色を活かし、野菜の需給動向等の周知や優れた機能のPRなどにより、暑さが一段落したこの時期、野菜の消費拡大活動を更に強力に推進することとします。